広報

さめがわ

1998 MAY.
5
平成10年 No.533



特集

あれから11年…

江竜田の大火を振り返る

昭和六十二年四月二十四日午後二時三十五分ごろ原因不明の出火。大字渡瀬字江竜田付近一体の二百四・八(ヘクタール)の山林を一瞬にして焼け野原と化した江竜田の大火。本村では過去に例をみない大火災となった。あれから十一年…。「忘れてはならない」「二度と起こしてはならない」――。当時を振り返ると、人それぞれに、さまざまな思いが脳裏をよぎることだろう。広報さめがわでは、棚倉消防署鮫川分署の協力を得て、十一年前の悪夢を振り返ってみた。



最悪の気象条件 一瞬にして火の海に

鮫川村と塙町の境界付近（塙町一本木地区）の山林から出火した原因不明の火災は、異常乾燥が続く中、北西の風、最大風速二十二(メートル)、湿度三三(パーセント)、火災気象通報「イ」の基準（実効湿度が六〇(パーセント)以下であって、最低湿度が四〇(パーセント)を下り、最大風速八(メートル)／



山林をなめつくしながら猛威を振う炎

秒を超える見込みのときに発令）、強風注意報が発令される最悪の気象条件の中で発生した。折からの強風にあおられ、炎は北東方向に拡大。一瞬にして緑の山林が真っ赤な火の海と化し、舞い上がる煙は、たちまち江竜田地区を不気味なほどに暗闇に包み込んだ。

通報を受けた白河広域消防本部の各署と村消防団、隣接町消防団からポンプ車など約百三十台が出動。また、同日十五時四十分に、村長から県に陸上自衛隊の災害派遣要請を行った。

村消防団の全団員召集などで懸命の消火活動を行ったが、火の勢いは衰えず、人家への延焼の危険性が高まった。そのため、江竜田、大戸中地区の二十九世帯、百五十九人に避難勧告命令が出され、渡瀬小学校に避難したが、不安と恐怖に眠れぬ一夜を過ごした。

遠足帰り 恐怖におびえる児童たち

この日、渡瀬小学校（児童六十八人）は、春の遠足だった。一・二年生は棚倉町の山本不動尊に出かけ、午後二時ごろ帰校した。しかし、郡山方面に出かけた三・四・五年生の帰りは午後四時過ぎ。火災の真っただ中にバスで戻った。

勢いよく燃え上がる炎を目の前にして、不安と恐怖におびえる児童たち。先生は「家は一軒も燃えていないから安心しなさい」と励まし、万が一に備えて学校に待機させた。

2千人分を超す炊き出し

村始まって以来の大火災で、消火活動にあたる消防団員、警察署員、自衛隊員、住民らに対する炊き出しも、想像を超える膨大な量になった。

村では、午後四時から給食センター職員十人を緊急動員したほか、村委託の炊飯業者、さらに村内の食堂にも協力を求めて、夜半まで二千人分を超すおにぎりを作った。

一方、地区住民もあちこちで炊き出しに協力した。このうち、対策本部近くの大字渡瀬字木之根地区では、全戸が台所を提供したり、炊飯に協力した。西山地区から応援に駆けつけた岩野草婦人消防隊員もハッピ姿で次々とおにぎりを握った。

現地対策本部となった渡瀬小学校では、翌二十五日は臨時休校を余儀なくされたが、当時の下重富保校長をはじめ教職員は、本部が解散されるまで手伝いに走り回った。

また、地元住民は、応援に駆け付けた隣接町の消防団員や自衛隊員の道案内を行った。

選挙戦も一時休戦 各陣営とも現場へ

当日は、四月二十六日投・開票の統一地方選挙が、十六年ぶりに村長・村議会議員のダブル選挙となり、激しい選挙戦が繰り広げられていた。

しかし、この「非常時」に各陣営とも一時休戦。火災現場へ直行し、消火活動や避難者の励ましに全力をあげた。

不安と恐怖の19時間

4月24日

14：52　林野火災らしいとの119番通報
53　棚倉消防署塙分署出動
54　棚倉消防署鮫川分署、塙町消防団出動
56　村防災無線で火災発生の緊急放送
57　村消防団出動（第1次）
15：16　全団員召集、役場全職員現地へ
40　現地対策本部設置（江竜田公民館）
40　江竜田地区に避難勧告命令
40　県に陸上自衛隊の災害派遣を要請
16：07　県知事から自衛隊に出動要請
30　県警ヘリコプターが空中偵察
42　衛生処理組合にバキュームカー出動要請
17：20　炊き出し準備
55　現地対策本部を渡瀬小学校に移す
18：10　陸上自衛隊通信部隊到着
19：41　自衛隊第2陣到着（以後3～6陣到着）
20：05　火災全体は下火に向かう
22：05　自衛隊に大戸中地区の火災防御を依頼
20　県警機動隊到着
24　大戸中地区に避難勧告命令
27　自衛隊員100名増員を指示

4月25日

1：50　江竜田の滝付近に延焼拡大
2：56　滝付近は鎮圧、西野沢から一本木延焼中
3：46　対策本部で今後の対応を協議
4：00　大戸中地区の避難勧告解除
05　西野沢付近鎮圧
30　自衛隊ヘリ到着（中型4機、小型3機）
5：03　中型ヘリ4機による空中消火開始
15　塙町の火災鎮火
6：31　全団員が大戸中方面の消火に入る
8：10　火勢鎮圧を発表（防災無線放送）
9：38　鎮火発表（防災無線放送）
10：15　村現地対策本部解散

空陸一体で消火作業

白河広域消防本部と鮫川村、塙町、棚倉町、矢祭町の消防団員ら約千二百人、陸上自衛隊の六百六十九人、県警本部からも百五十一人が出動し、消火作業に当たった。

二十五日未明になり火の勢いが衰え始めたが、依然として江竜田、大戸中付近は燃え続けていた。午前四時半、自衛隊ヘリコプター七機（空中消火用四機、偵察用三機）が到着し、空中消火を開始した。一方、地上では消防団と自衛隊員が、チェーンソーで木を切り倒すなど、懸命の消火活動を行った。


強風にあおられ、またたく間に燃え広がる炎

19時間ぶりにようやく鎮火

村消防団員をはじめ、応援に駆け付けた棚倉町、矢祭町の両消防団、県警機動隊などの懸命な消火活動と、自衛隊のヘリコプター四機による延べ六十六回に及ぶ空中消火が功を奏し、十九時間にわたり燃え続け、山を焼き尽くした大火も、ようやく下火となった。そして、午前九時三十八分に鎮火した。地区住民をはじめ、夜を徹して懸命に消火活動に当たった消防団員、自衛隊員らはホッと胸をなでおろした。

この火災による焼失面積は、二百四・八㌶（鮫川村分＝百三十九・六八㌶、塙町分＝六十五・一二㌶）、損害額は、実に四億三千万円（鮫川村分＝三億一千万円、塙町分＝一億二千万円）にものぼった。しかし、人家への被害、死傷者がなかったことが、不幸中の幸いだった。



真っ黒に焼けただれた山林は無惨な姿



対応に追われる現地対策本部

林野火災防御訓練
防災無線が威力発揮

この火災では、昭和五十六年十月に鹿角平地内で実施された県林野火災防御訓練が被害の軽減に大いに生かされた。特に、この訓練によりジェットシューター（可搬式散水装置）五十基が棚倉消防署管内に配備されていたことから、広域消防の二十基と合わせて七十基をすべて投入し、消火活動に大きな威力を発揮した。

また、前年の四月に設置した村防災同報無線が、状況の把握と村民への広報に大きく役立った。村公用車に積み込んだ移動局が現場の様子を伝え、その情報を役場で取りまとめ「大戸中地区に避難勧告命令が出ました」「一本木地区は下火になりました」などと広報。消火作業を円滑にするとともに、村民の不安をやわらげることができた。

関係機関の出動状況

（２日間の延べ人員）

村消防団	684人
隣接町消防団	2,378人
白河広域消防本部	114人
陸上自衛隊	1,338人
県警察本部	302人
県・町村等職員	832人
営林署	60人
その他の協力者	914人
合計	6,622人

江竜田地区は今
着実に緑を取り戻す

江竜田の大火は、関係者の懸命な消火活動により最小限にくい止められた。しかし、山には真っ黒に焼けただれた木々が立ち並ぶばかり。十一年が経過した今、江竜田地区の山々には緑が戻ったのだろうか。そして、これまでには、当事者にしか分からないさまざまな苦労があったはず。そこで、地元江竜田地区在住の芳賀弘さんを訪ね、話を伺った。


11年経った今、山に緑が戻った

山は生活の一部 それが見る影もない

芳賀弘さん（七十一歳）は、十一年前の江竜田の大火で約六㌶の山林を失った。しかし、それでも損失は少ない方だったという。多い人では、なんと十五㌶以上の山林を一瞬のうちに失ったという。中には、樹齢が五十年から六十年というスギもあった。

江竜田地区の大部分が、昔から牛を飼い、山を育てながら暮らしてきたという。その生活の一部ともいえる山林を、十九時間という長いようで短い時間に、炎は容赦なく焼き尽くしてしまった。「メラメラメラ、バリバリバリ……」。山は、見る影もないほどに真っ黒に焼けただれた。

すべて焼失 ぼう然とするばかり

芳賀さんは、老後の生活の糧にしようという考えのもと、三十歳のころにスギを植え、山の手入れに精一杯の力を注いできたという。奥さんの貞子さんも、愚痴一つこぼすことなく作業を手伝った。

その当時に植えたスギの木も、火災当時は、樹齢三十年から三十五年にまで生長していた。無惨にもそれが、すべて焼失してしまった。それだけに、ショックは計り知れず、ただただぼう然とするばかりだったという。


これまでの苦労を話す芳賀弘さん



住民は悩んだ。そして、何度となく協議を重ねた。その結果、復旧造林の道を選んだ。山は、江竜田地区の生活を潤す水の源である。いわば命の源であることを住民は知っていた。売ってしまうのは簡単なことだ。金にもなる。しかし、それ以上に山からの恵みを受けている。

リゾート開発が行われれば、当然のごとく水は汚染され、環境が破壊されることは必至。次代を担う子どもたちの将来を考えての決断だった。もちろん、それなりの苦労は覚悟の上だった。

地区住民は、木を植えた。一本一本丁寧に。山に緑を取り戻そうと必死だった。復旧造林と一言で言っても、そう簡単にできるものではない。芳賀さんは、六ヘクタールを造林するのに三年もの月日を費やしたという。およそ六割は森林組合に委託したが、残りは自分で汗を流した。その間には、火災のショックや疲労が重なったためか、胃の病気をわずらい手術、入院療養を余儀なくされた。

復旧造林を選択 子どもたちの未来のために

火災直後、江竜田地区に「リゾート構想」の話が持ち上がった。山を元通りにするには、かなりの時間と労力がかかり容易ではない。この際だから売ってしまうか。地区

山とともに生きていきたい

あれから十一年……。「思い出したくはないが、決して忘れてはならない。二度と繰り返さないためにも…」。芳賀さんは、当時を振り返りながらそう話す。

山は着実に緑を取り戻している。あの大惨事が、まるで夢の中の出来事だったかのように…。「すくすくと大きくなる木は、まるで我が子の成長を見ているようだ」と芳賀さんは話す。

時代の流れとともに、木材の価格が低迷し、林業離れが進んでいる。現代の生活は、林業では成り立たないという。労働力の高齢化は、林業においても例外ではない。下刈りや枝打ちといった山の手入れは、かなりの労力を要する。しかし芳賀さんは、「山を守るという精神がある限り、山とともに生きていきたい」。目を輝かせながら話してくれた言葉がとても印象的だった。

消防団員に感謝

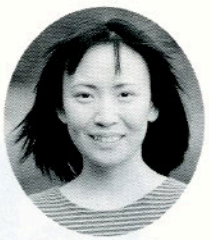


大字渡瀬字江竜田
芳賀　洋郎さん（80）

村始まって以来の大火災に、当時は成す術もありませんでした。辺りは真っ黒い煙で覆われ、昼間だというのに薄暗かったことを覚えています。

あのような大規模火災だったにもかかわらず、一人のケガ人もなく、また、人家が焼けずに済んだのは、不幸中の幸いだったと思います。これも、消防団員をはじめ、関係者の必死の活動のおかげと、改めて感謝いたします。

楽しかった遠足が…



大字渡瀬字江竜田
芳賀　恵さん（19）

当時、私は小学３年生で、その日は郡山方面へ遠足に出かけていました。福原地内まで来ると、真っ黒い煙が舞い上がっているのが見え、江竜田が火事だと知ったときには思わず泣き出してしまいました。「消防団がいるから大丈夫」。そう自分に言い聞かせながら、一刻も早く火が消えることを祈りました。

「遠足」と「火災」が、同じ日の出来事だったということが今でも信じられません。

特集

あれから11年…

江竜田の大火を振り返る

広報座談会

あの日の教訓をどう生かす

二日間で、延べ六千人を超える人員を動員するなど、村始まって以来の大火災となった江竜田の大火。あのような大惨事を二度と繰り返さないためにも、あの日の教訓を今後の防火活動に生かさなければならない。そこで、鈴木義美棚倉消防署鮫川分署長が司会となり、当時、それぞれの立場で火災への対応に当たった村民の代表五人が、当時の体験談、教訓、今後の対応などについて話し合った。



司会　**鈴木義美**さん(49)

矢祭町出身。平成9年4月から棚倉消防署鮫川分署長を務める。



松崎　清次さん(67)

西山字岩野草在住。火災当時、村消防団長として全団員の指揮をとる。

初めての経験に戸惑う住民

司会　本日は、お忙しいところご出席いただきありがとうございます。今日の司会を務めます鮫川分署の鈴木です。どうぞよろしくお願いします。

江竜田の山林火災は、十一年前の出来事ですが、あの大惨事を繰り返してはならないということで、皆さんにお話しいただきたいと思います。

火災当日は、空気が乾燥し、最大風速二十二メートルなど、最悪の気象条件のもとに発生し、想像を絶する大火になってしまいました。皆さん、この火災について感じるものがあると思いますが。当時、消防団長を務められた松崎さんはどうですか。

松崎　そうですね。当時、団長としても経験のないことでしたから、戸惑いもあり、団長の役目を果たしたかどうかという反省はありますね。あの時は選挙期間中で、遊説の真っ最中に現場へ駆け付けたところ、空が真っ黒の状態でした。

火の勢いがものすごく、どうしようもなかった



高木壽美子さん(50)

西山字婦知女賀在住。当時、岩野草婦人消防隊長として炊き出しなどに協力。



國井鬼子治さん(72)

渡瀬字中山在住。火災当時は、渡瀬区長として地区住民への対応に当たる。



寺島　和子さん(60)

渡瀬字江竜田在住。火災当時、住宅への延焼の危機を経験した一人。



水野　一美さん(50)

西山字追木在住。現村消防団副団長。火災当時は、訓練部長として活躍。

ですね。ですから、江竜田集落だけでも守れということで団員に指示するのが精一杯でしたね。

司会　國井さんは当時、区長さんになって間もないときだったということですが。

國井　とにかく火勢がすごくて、あの火を見た時点では、どうしてよいのか分からなかったですね。しかし、人家を焼いてはならないという気持ちは大きかったですね。

司会　寺島さんは、自分の家が危ない状況だったということですが。

寺島　そうですね。煙の流れが、私の家の方に向いてきたので、これは危ないと思い家に戻ったんです。そして、位牌だけでも外に出そうということで、土の中に埋めたんですよ。隣の犬がつながれていたので、助けに行った時には、裏の杉山が「バリバリバリ」と音を立てながら、ものすごい勢いで燃えていました。そのあとは「逃げろ、逃げろ」という感じで、家の中の物も運ぶことも考えずに逃げるだけでしたね。

家が焼けずに済んだのは、消防団をはじめ、関係者の必死の活動のおかげと改めて感謝したいと思います。

被害の軽減と安全の確保

水野　私は当時訓練部長で、分団長から指示を受けて、団員に精一杯指示を出すのですが、団員がどこで作業をしているか把握しにくい状態だったため、指示が思うように届かなかったということもありました。消火活動は当然しなくてはならないのですが、二次災害を防ぐことも重要で、そのための指示を伝えることも大変容易でなかったという状況でした。

高木　私はあのとき、農作業をしていたんですが、同報無線で何度も出動要請をしていたんで、これは大きな火事だと思い家に戻ったんです。そして、何か手伝うことがあるかもしれないということで、婦人消防隊の隊員に連絡して現場に向かったんです。そして、渡瀬保育所の辺りまで行ったら、煙と飛び火がものすごくて震えてしまいました。

対策本部の渡瀬小学校に行き、婦人消防隊も炊き出しのお手伝いをさせていただいたんです。

司会　松崎さんは団長ということで、被害の軽減と住民の安全、そして団員の安全を考えながら指揮をとられたと思いますが。

松崎　団員の気持ちは「火を見れば消す」という意識が強いので、事故がなければということは考えていました。事故があっても不思議ではないくらい火に包まれている状況が何個所もありましたからね。ですから、副団長を通して注意するよう

に指示したんです。しかし、全団員を統率することは難しかったですね。

それから、鮫川村では、消防活動の中で中継訓練をやっていたということが、被害の軽減に役立ったと思います。

迫り来る炎に作業は困難

司会　水野さんは、かなりの危険性を含んだ状況での消火活動で、自らの危険もあったと思いますが。

水野　危険はもちろんありました。山の地形が地元の人しか分からないため、暗闇の中で地元の人を先頭に山に入ったわけですが、後ろから炎が迫ってきて恐ろしかったですね。作業は困難でした。

松崎　自衛隊員や他町の応援消防団員が来たときには、区長さんにお願いをして地元の人に火災現場の案内役をしてもらったというのが現状でしたね。

司会　國井さんは、当時区長さんで、現場の案内もしたということですが。そのときの現場の状況はどうでしたか。

國井　一番心配だったのは、懐中電灯が足りなかったことです。知り合いなどに借りて、案内者に持たせてやったということを覚えていますね。道案内といっても、全部知っているというわけではないので、消防団員の案内には地元の消防団員がつくようにして、自衛隊の案内には地元の住民にお願いしたんです。



地元渡瀬小学校の渡瀬少年消防クラブでは、江竜田の大火の翌年から毎年、防火意識を高めるため「防火ポスター展」を開催している

自宅への延焼も覚悟した

司会　大戸中、江竜田地区では、大部分の人が自宅が燃えるということも覚悟はしていたと思いますが。

國井　そうですね。何人かの人とは話をしたのですが、家はあきらめていたということでしたね。

司会　國井さんは、住まいが中山ですが、中山地区の状況はどうでしたか。

國井　ものすごい煙でしたから、小さな子どもたちでさえ、カバンを背負って避難しようとしていましたね。

司会　隣接町からの応援を受けて、消火活動に当たったわけですが。

松崎　火災におびえている地元の人たちにとっては、応援をいただいたことは最高の力になったと思いますね。私自身としても、励ましの言葉をいただいたり、冷静沈着に、しかも確実な行動をしてくれたということには感謝していますね。

司会　高木さんにお聞きします。当時、五千個を超すおにぎりを作ったという記録が残っているんですが。

高木　渡瀬地区では、二カ所くらいに分かれて、手分けして炊き出しをしていたと思います。

國井　そうですね。渡瀬地区では二カ所と、江竜田・大戸中地区以外の各組長さん宅で炊き出しをして、本部に届けてもらいました。

地域の連携が大切

司会　それでは、江竜田の火災から得た教訓を、今後どう生かすかということで話し合っていきたいと思います。鮫川村の林野面積は、全体の七四㌫を占めるということで、緑が豊かで自然に恵まれている反面、山火事になれば当然、大きな災害につながるということがあります。あのような惨事を繰り返さないために、どのようなことに注意すれば防ぐことができるかということでお話しいただきたいと思います。

水野　消防団としては、消防署、あるいは、子どもたちで結成している少年消防クラブ、婦人消防隊、地域の方々との横の連絡を密にして、火の用心の強化に努めなければならないと思っています。

寺島　やはり一人ひとりの注意が一番大事だと思います。しかし、春になると地元の人よりも、他町村からの入山者が増えるということで、地元の人たちは心配しているんですよ。

國井　四月ごろになると、どうしても乾燥の度合

いが強いということですから、そこにポイントをおいて、火災の予防を重点的に行っていけば効果があると思います。もちろん、個人個人が注意することが大切だと思いますが。

防災無線の積極活用を

松崎　江竜田の火災の発生当時は、約一カ月以上の乾燥期が続いていました。そのような状況だと、どんな小さな火でも風が吹けば大火になるわけです。ですから、危険の度合いをみながら、防災無線を利用して注意を促してはどうかと思いますね。地域の人たちや子どもたちの防火意識はもちろんですが、入山者への注意を促すためにも、多めに無線を活用してはどうかと思います。そうして徹底してもらわないと、いくら地域の人が注意しても、入山者にタバコの投げ捨てやたき火をされてしまうと危険だということですね。

高木　そうですね。自分たちが注意していても、よそから来た入山者にタバコの投げ捨てなどをされると困りますね。それから私たち自身も、日ごろから油断をせずに、火災予防に注意しなければならないと思います。そして、火災の危険がある場合には、やはり防災無線で放送してもらえると、いろいろと気が付いて、注意するのではないかと思いますね。

水野　火災原因のデータを見ますと、子どもの火遊びは、このところ減ってきているんです。たき火やタバコは、意外とお年寄りに多いように思われるので、「火の用心」ということで講話などをしていただけると、防火意識が高まるのではないかと思いますね。



必死の消火活動により人家への延焼はまぬがれた

二度と繰り返さないために

司会　木材の価格低迷、労働力不足などから、山林が荒れてきており、火災時には大きな災害につながる危険性があります。また、林道の整備は、火災の拡大防止、消火活動の面から大変有効と考えられますが、開発の面も含めてお話しいただきたいと思います。

松崎　江竜田の火災からヒントを得たのが、雑木林は燃えにくいということです。ですから、杉ばかりでなく、間に雑木林があれば燃え広がりが防げるということです。それから、消防タンク車や中継技術が充実しているのであれば、林道や農道が整備されていることで、現場へ早く駆け付けられ作業が迅速に行えるということ。また、団員の危険も少なくなると思います。

司会　総合的に考えると、材木を搬出するという面ばかりでなく、防火の面や、緑を守るということも考えた林道の整備が必要だということですね。

松崎　それから、少年消防隊や婦人消防隊のような組織がいくつもあれば、防火意識が高まって、行政側が押しつけるよりも効果的だと思いますね。

司会　火災を防ぐには、防火意識を高め、予防することが大切だというお話がありました。山火事が最も起こりやすいのが三月から六月です。白河管内では、昨年は四月に九件の山林火災があったんですが、今年は定期的に雨が降ったことにより山火事が起きていないんです。このように、気象条件に大きく左右されるということで、危険な状態になったときの予防活動、防災無線の放送が効果的で重要だということですね。

本日の座談会には、江竜田の大火の体験談、教訓、今後の対策などについて貴重なお話をいただきました。あのような惨事を二度と繰り返さないために、これらの意見を参考にして、火災予防の一層の推進に努め、緑豊かで安心して暮らせる地域づくりに反映させていきたいと思います。

本日は、大変ありがとうございました。

フォト・スナップ

鮫川ふるさと春まつり
高原の春を満喫

鮫川ふるさと春まつり実行委員会（圓谷實会長）主催による「第二回鮫川ふるさと春まつり」が、五月二日から五日まで、戸倉の里、鹿角平観光牧場、ほっとはうす・さめがわの三会場で開催されました。村内はもとより、県内外から大勢の観光客が訪れ、高原の春を満喫しました。その模様をカメラで追ってみました。



ぼくは将来「そば職人」（そば打ち体験）



春の風をひとりじめ（パラグライダー体験）



夕暮れを背景に幻想的な雰囲気の中、ユーフォニアムとオカリナの演奏（かがり火コンサート）

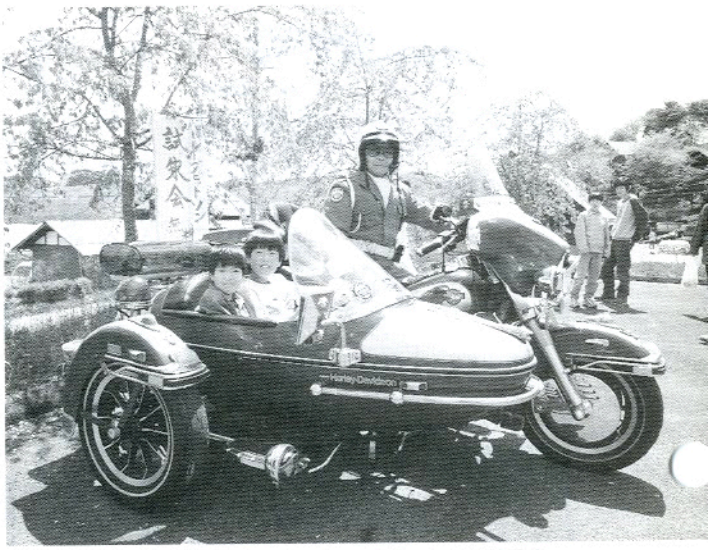


組み写真の部で入選5席に選ばれた「鎮守の森ではっけよい」



笑顔がはじけました





子どもたちに人気を集めた、ハーレーダビットソン試乗会



旬の野菜や山菜はいかが

広報コンクール
鮫川村初の全国入選

社団法人日本広報協会の主催による「平成九年全国広報コンクール」は、二月二十五日から三月二十六日まで各部門別審査会、四月二十一日に総合審査会が東京都で行われました。

同コンクールは、自治体広報のレベル向上を目的に行われているもので、今回は、広報紙、広報写真などの各部門に、全国から合わせて三百四十二点の応募がありました。

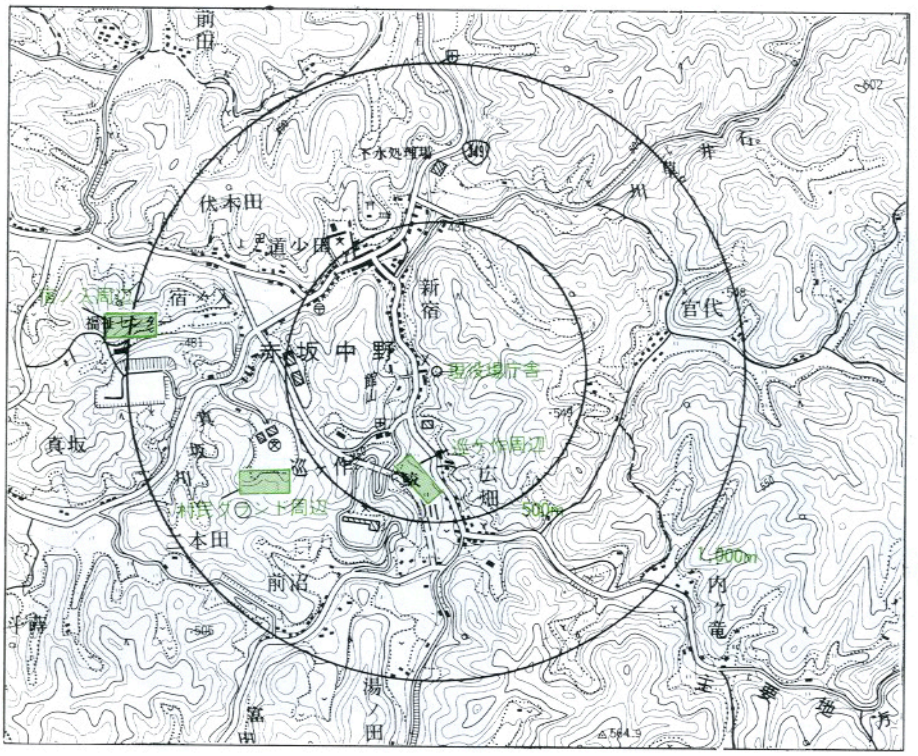
二月号でもお知らせしましたが、鮫川村から、福島県市町村広報コンクールで「特選」を受賞した、一枚写真の部「しあわせ」と、組み写真の部「鎮守の森ではっけよい」が、それぞれ福島県代表として出品されました。

このうち、組み写真の部には、全国から三十四点の応募があり、その中から、鮫川村の作品「鎮守の森ではっけよい」が入選五席（全国六位）に輝き、鮫川村では初めての全国入選となりました。一枚写真は、惜しくも選外という結果でした。

このたびの受賞は、村民の皆様をはじめ、東京鮫川会の皆様、また、各関係機関のご理解とご協力によるものであり、紙上より厚く御礼申し上げます。

今後とも、皆様に親しまれ、読みやすい広報紙づくりに努めて参りますので、なお一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

役場庁舎建設候補地を3カ所に



昭和二十八年に建築された現在の役場庁舎は、老朽化が激しく、各課などが分散していることから、住民の皆さんに不便をかけている状況であり、早急に改築が望まれています。

現在、村では各区長さんや議員さんなど十五人の方々を庁舎建設検討委員に委嘱し、現在まで七回の会議を開催しています。

建設予定候補地の選定に当たっては、住民の利便性を第一に考え、行政・情報・交流の拠点となるべき立地条件などを十分考慮しながら進めています。

現在の庁舎は、急傾斜と国道、河川に囲まれ、適地でないことが決定され、これまでに現地調査や協議を重ね、移転を前提に候補地を三カ所にしぼりました。

今後、さらに村民の皆さんの意見を集約しながら、今年の九月ごろまでには建設予定地を選定し、村長に答申することとしています。

庁舎建設についての意見、提言などについては、最寄りの検討委員にお寄せください。

庁舎建設検討委員会

（平成10年4月1日現在・敬称略）

行政区	氏名	備考
赤坂西野区	高坂　久男	副会長
	藤田　一夫	副会長
西山区	我妻　隆	
	関根　貢	
赤坂中野区	矢吹　一男	
	金澤　省道	
	矢吹　義郎	
赤坂東野・石井草区	宗田　秀郎	
	前田　武久	
富田区	松本　克己	
	船木　彦助	
渡瀬区	蛭田　晃	
	藤田　好幸	会長
青生野区	生田目勝利	
	長久保一進	

建設予定地選定基準

①行政の拠点、情報の拠点、交流の拠点となるべき立地条件、住民の利便性はどうか。
②現在の公共施設との関係はどうか。
③必要な敷地面積は確保できるか。
④隣接地に、将来公共用地として取得可能な土地があるか。
⑤用地取得費はどうか。
⑥自然環境条件はどうか。
⑦自然災害の起こりにくい地形、安定地盤か。
⑧敷地造成費用はどうか。
⑨移転地に対し、住民の賛成が得られる場所か。
⑩将来周辺地域の発展性はどうか。
⑪その他

庁舎建設検討委員会
これまでの検討経過

開催年月日		協議議題
第1回	8．2．27	・鮫川村役場庁舎建設検討委員会設置規則について ・会長、副会長互選について ・今後の活動計画について
第2回	8．10．22	・庁舎建設場所について ①現在地について 庁舎の規模(必要面積)の検討 ②移転する場合について 移転先の検討
第3回	8．12．3	・役場庁舎視察（古殿町、表郷村、棚倉町） ・庁舎の規模(必要面積)並びに関連施設等検討について
	9．1．23	・役場庁舎視察（下郷町・区長会）
第4回	9．12．5	・庁舎建設の経過について ・庁舎建設に関する組織について ・庁舎建設場所の候補地検討について
第5回	10．1．20	・庁舎建設場所の候補地現地調査(12カ所) ・庁舎建設場所の候補地検討について
第6回	10．3．6	・庁舎建設場所の候補地検討について（3カ所） ・庁舎建設基本計画について
第7回	10．4．24	〃



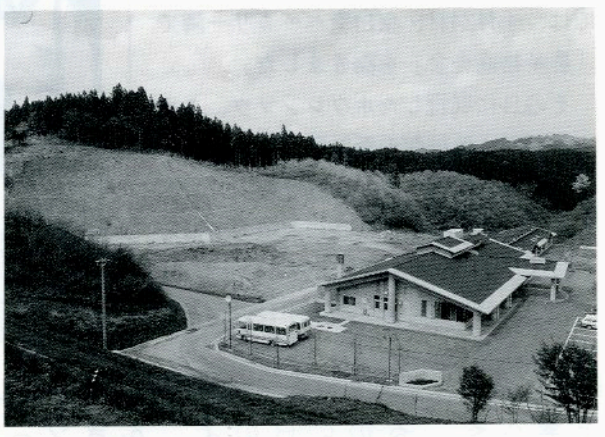
〔巡ケ作周辺〕
①16,100平方㍍
②162,346千円
③進入道路
(1)村道壇の岡線からの取り付け
延長＝170㍍　幅員10㍍　こう配８％
(2)国道349号バイパスからの取り付け
※国道349号バイパスと同じ高さの敷地となる。

建設予定候補地の概況（3カ所）

①平場面積
②概算用地造成費(用地購入費含む)
③その他



〔村民グランド周辺〕
①16,300平方㍍
②345,356千円
③進入道路
(1)国道349号バイパスからの取り付け
延長＝220㍍　幅員10㍍　こう配８％
(2)村民グランドから
延長＝50㍍　幅員６㍍　こう配10%
※現在の村民グランド面より18㍍高い敷地となる。



〔宿ノ入周辺〕
①17,600平方㍍
②222,117千円
③進入道路
(1)主要地方道勿来浅川線からの取り付け
延長＝230㍍　幅員10㍍　こう配8.6%
(2)ひだまり荘からの取り付け
※ひだまり荘と同じ高さの敷地となる。

むらのできごと

広報にあなたの写真が載りましたら
さしあげますのでご連絡ください。
（☎49－3111 内線214）

西野緑の少年団
森林観察探鳥会を行う

西野小学校の西野緑の少年団（石井克明団長）では、五月七日、「森林観察探鳥会」を行いました。

低学年は、酒垂、虹ケ沢地内を散策し、ホオジロやシジュウカラなどの鳴き声を聞きながら、双眼鏡を使って野鳥の様子を観察しました。

高学年は、熊野神社方面へ出かけ、自然観察指導員・日本野鳥の会会員の鈴木一さん（富田字鍬木田在住）と、少年団育成会長の北條伊佐美さん（赤坂西野字岫長在住）らの指導のもと、今までかけた巣箱の様子や野鳥の観察、樹木の種類などを学びました。

また、自然の役割や仕組みなどについて学んだあと、一人ひとりが感想を発表して会を締めくくりました。



野鳥を観察する児童ら

かぼちゃ美人の会
農産物直売会



新鮮野菜を買い求める主婦ら

農家の主婦グループ「かぼちゃ美人の会」（会長　鈴木リキヰさん・会員８人）では、４月24日、東白堂ベーカリー隣で「農産物直売会」を開きました。

その日に収穫したホウレンソウ、ニラ、ネギなど十数種類の新鮮野菜や山菜、コンニャク、漬物、ミソなどを格安で販売。午後４時半の開店と同時に大勢の主婦らがお目当ての品物を買い求めていました。

直売会は、毎月第３週の平日の夕方に開かれます。

お元気ですか
紫外線に注意



村国保診療所
菅野　誠先生

新緑がまばゆく映える季節を迎えましたが、この時期、注意したいものがあります。それは「紫外線」です。

仕事、行楽、山菜採りなどで戸外で過ごす時間が多くなりますが、一年のうちで五月から八月までは、日光の紫外線が最も多くなります。太陽光線の中に含まれる紫外線Ｂ（中波長紫外線）は、シミやシワといった皮膚の老化を引き起こすだけでなく、皮膚がんの元凶です。

近年は、オゾン層の破壊によって紫外線（特に紫外線Ｂ）の量が増えると予測されます。日本人の寿命が延びて、すでに皮膚がんや、その一歩手前の前がん症の患者が増えているという報告もあります。

日焼けというと、皮膚が赤くなる急性の炎症を思い浮かべると思います。これは主に紫外線Ｂのしわざですが、地上に届く紫外線には波長の長

オオムラサキの里づくり
エノキの苗木を植樹

四月十九日、夢楽会議21（関根政雄会長・会員二十一人）主催による「エノキ植樹祭」が行われました。


エノキの苗木を植える児童ら

国蝶オオムラサキの里づくり運動の一環として行われているもので今年で四回目。会員をはじめ、村内の小学生や保護者など約六十人が参加しました。

参加者は、二班に分かれて、館山公園、強滝、鹿角平観光牧場などにオオムラサキの幼虫のえさとなるエノキの苗木約五十本を植樹しました。

また、山村開発センターの入口付近の川沿いに観察用飼育舎が設置され、四月二十三日にオオムラサキの幼虫五十匹とゴマダラチョウの幼虫二十匹が放されました。オオムラサキの生態を知ってもらうと同時に、自然環境に対する意識を高めてもらうため、今後、夏の羽化までの間、観察会などを行う予定です。

ニジマス釣り天狗好楽会

5月5日、鮫川村水産資源保護協会主催による恒例行事「ニジマス釣り天狗好楽会」が、広畑地内の鮫川本流で行われ、大勢の大公望でにぎわいました。

「こどもの日」にちなんで、子ども専用の無料釣り場が設けられ、約100人の子どもたちが、大物をねらって釣り糸を垂れていました。

1人で何十匹も釣り上げる人もいて、ゴールデンウィークの最終日を楽しく過ごしました。


大物をねらい釣り糸を垂れる参加者

ほっとはうすのバウムクーヘン作り
テレビ生放送で紹介

四月三十日、福島放送の「スーパーJチャンネル」の番組の中で、「ほっとはうす・さめがわ」で行っている人気体験メニューのバウムクーヘン作りが生中継で放映されました。

「バウムクーヘンの輪はどうしてできる？そのヒントは鮫川村にあった」という同番組の企画。

竹筒に、小麦粉などを混ぜ合わせた生地を塗り、回転させながら炭火で焼く、という工程を数回繰り返すことで、手作りのバウムクーヘンが出来上がります。

取材に訪れた福島放送の深田アナウンサーは、「竹の香りがして、とてもおいしい」と絶賛していました。


大きなバウムクーヘンに驚く深田アナ（左）

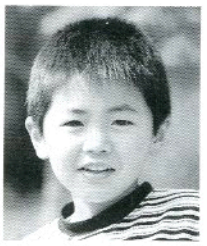
い紫外線Aもあります。こちらは、曇りの日も容赦なく降り注ぎ、ガラスをも通過しますので注意が必要です。

紫外線の怖いところは、そのエネルギーによって遺伝子の本体であるDNAを傷つけることです。この傷は、ほとんど元通りに直されますが、時には間違い（突然変異）が起きます。子どものころから繰り返される日焼けで、突然変異が蓄積された結果、二十歳過ぎからシミ、シワなどの光変化が始まり、六十歳を過ぎると皮膚がんになることもあるのです。

紫外線が多くなる午前九時から午後三時までの時間帯は、素肌での外出はなるべく避けたいものです。外出時には、服装に合わせた日傘をさすか、つばの広い帽子をかぶりましょう。長そでの衣服を着て肌の露出を避けることも大切です。素肌で外出する場合に効果があるのは、紫外線をカットするサンスクリーン剤を塗ることです。日焼け防御指数（SPF）三十以上ならば、一日中太陽を浴びても日焼けを防止できます。

日焼けは、大人だけでなく、子どもの時から防ぐように注意しましょう。

いあふれひろば





村民リレー ②



鈴木リキ子さん (51)

大字西山字馬場在住。農産物の直売や産直などを行っている婦人グループ「かぼちゃ美人の会」の会長を務める。福島県婦人農業士として活躍中。

隣席の会話と私の見た夢

四月のある雨の日。友人を案内して「ほっとはうす」に出かけた。隣町から来た五、六人のグループが昼食をとりながら、熱心に「ほっとはうす」の立地と今後について話していた。隣に座った私たちの耳に入ってくる会話は「この山奥に何を目的に来るのか。人を魅きつける魅力ある商品や食べ物がないとダメ。お風呂も薬効がないなら、花の季節には花の湯にしたら楽しい。ここにしかないオリジナルブランドを作る。それにはよそを見て歩き研究する」などなど。結論は鮫川ブランドを全面に出し、お客様が満足して帰れば、おのずと客は増えると言い切っていた。

その夜、私は夢を見た。山村の原風景の中で食べるほっとはうすのメニューは、地元産の山キノコやこんにゃく入りのおしゃれなフランス料理のフルコースと、若い女性好みのヘルシーケーキで押すな押すなの大繁盛。裏方の中高年の人たちは、せっせと野菜を作り、山菜を採り、新鮮な材料を一流のシェフにゆだねる。シェフは魔法使いのように豪華な料理に変えていく。彩りに裏山の木の芽や葉を添えて—。そう、鮫川のこの自然は宝の山ですもの。お腹がいっぱいになり、遊び疲れてお風呂に入れば、浴槽には日替りで深紅の山つつじや藤の花が浮かべられ、ホールでは、老若男女が入り乱れて、素晴らしいダンスパーティーが開かれていた。だけど私は、赤ちゃんをおぶってうろうろしている…。というところで目が覚めた。現実は厳しいのかもしれない。

次回は、鈴木さんの紹介で、関根政雄さんの登場です。

文芸

俳句

コーヒーに誘われて行く金曜日　中井　恒峯
花爛漫嫁入道具動き出す　金沢　暁舟
茶屋掛けを始める岸辺さくら餅　矢部　正子
朝靄の破れぬ雉子の一声に　大池　魚水
春夕日真赤な火の玉落ちてゆく　小山田清哲
前山も幽玄の景朝がすみ　黒田　寿香
花待つを添える一語に友見舞う　山本　朗史
春風にさそわれ雲の動き出す　北條素人坂
行きすぎて人の名浮かぶ花堤　大平　太平
柔かき桜まじりの峡の色　山本五十鈴
母少し小さくなって春といる　斉須　信子
しいたけに太くも軽き春の意気　前田　信子
夢いっぱいかばんに詰めて新入生　金沢三津子

短歌

隣家に赤ちゃん生れ祝いとて赤飯いただく梅香る朝　岡部　シゲ
大学の決まり出て行く孫一人老に佗しさ一つ残して　北條　平
良い空気自然が豊か言葉のみ残して若者村を出てゆく　前田　栄美
金メタル陰で支えた母の姉涙で見おりあの清水選手を　水野　フク



仲間たち

わたしのそばがいい会

代表　本郷榮治・会員36人

「わたしのそばがいい会」は、村内のそば愛好者で組織するグループです。年間を通して、そば打ちの実習や研究会を行い、技術の向上に努めています。また、実際にそばを栽培・収穫し、秋のうまいもの祭りや新そば祭りでは、地粉一〇〇％の手打ちそばを観光客に提供し、人気を集めています。さらに、交流施設「ほっとはうす・さめがわ」のそば打ち体験の指導も行い、村のPRに一役買っています。

「そば粉一〇〇％の手打ちが一番」と、そば長の本郷さん。

▼**問い合わせ**…そば長・本郷榮治さん（☎49-2680）

幸せにみどり児抱きし隣の嫁わが杳き日の嫁の座を思う　鈴木　クニ

髭剃るに鏡はいらぬ去年より若くはならぬ顔見ずもよし　関根　一好

ねこやなぎ大雪の冬耐え越えて春ともなりて芽吹きたりける　芳賀　洋郎

早春のなだりに咲きてカタクリの薄紅の花は何に羞らう　大竹　華子

歌友より賜びしカタクリ咲き出てぬ慎み深き心映して　森　芳子

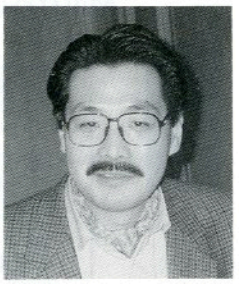
読書して時には眺入るアルバムも飽くことなく留守居の一日　鷲野谷　満

露天風呂に絶え間なく降る牡丹雪花見屋あつき湯煙の立つ　坂本　雪絵

庭先の雪解けしるし芽を吹きて薄きみどりの雪割草一つ　坂本　伊紀

東京鮫川会からこんにちは

温もり感じる「広報さめがわ」



中井　弘徳さん
東京都葛飾区在住
赤坂東野字広畑出身

東京都葛飾区に歯科医院を開院して、早くも八年が経とうとしています。ここ葛飾は、故渥美清さん主演の「フーテンの寅さん」でも有名な、人情味のある東京の下町です。

ここにも「広報かつしか」なる立派な広報紙があり、五日、十五日、二十五日の月三回発行されています。しかし、ふるさとへの思い入れからくるのでしょうか、「広報さめがわ」と何か違うのです。区からのお知らせ、福祉関連、講座・催し物の案内、街の話題、休日診療当番表などの健康欄などなど、一通りの内容を網羅してはいるのですが、何か事務的で素っ気ないのです。

「広報さめがわ」の、あの写真から伝わってくる子どもたちの生き生きとした表情や、ご年配の方々の温和な笑顔。各方面でご活躍されている東京鮫川会の先輩方の心温まるエピソード。なつかしき鮫川村でのさまざまな出来事。そして、紙面から溢れてくる「広報さめがわ」に携わっている方々の熱意や意気込み。それに触れるとき、日々の忙しい仕事や週一回の東大医学部での研修、追い立てられるように出てくるさまざまな雑務などから解放され、ほっとできるありがたい時間なのです。

最後になりましたが、このような温もりのある「広報さめがわ」を送っていただいております役場の方々に感謝申し上げますとともに、ふるさとの皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

東京鮫川会員の皆さん、あなたも「広報さめがわ」に登場してみませんか。ふるさとへの思い、近況などテーマは自由です。原稿を600字程度にまとめて、総務課広報担当まで写真を添えてお寄せください。

くらしの情報

鮫川村役場　☎　49-3111（代表）

村の人口

4月1日現在・（　）は前月比

人口	世帯
4,914人（−18）	1,106戸（−13）

男	女
2,436人（−8）	2,478人（−10）

今月の納付

・固定資産税　1期分
・国民年金保険料　5月分

納期限　5月25日(月)

（納期内に納めましょう
口座振替の方は残高確認を）

こちら窓口

4月1日から30日までの届け出分

●お誕生おめでとう

地区	赤ちゃんの名前	月／日	保護者
伊柳沢	三瓶（さんぺい） 浩斗（ひろと）	4／14	智弘
鍛治平	芳賀亜香理（はがあかり）	4／23	源二
新宿	橋本明寿香（はしもとあすか）	4／25	剛男
本坂	目黒（めぐろ） 司（つかさ）	4／27	信一

●おくやみ申し上げます

地区	亡くなられた方	月／日	年齢
青生野	堀川　トミ	4／5	88
中内	中川西嘉安	4／7	76
後田中	大竹　キン	4／14	86
二本田	湯坐　辰弥	4／16	69
鍛治平	芳賀　榮良	4／21	49

スポーツ

平成10年度 村スポーツ教室

平成十年度鮫川村スポーツ教室を次により行います。（場所は、いずれも農業者トレーニングセンター）



インディアカ教室

〔バドミントン〕
▼**期日**＝5月21日、6月4・18日、7月7・24日、8月6・27日、9月10・25日、10月15・29日（計11回）▼**対象**＝村民どなたでも参加できます▼初心者大歓迎

〔**卓球**〕
▼**期日**＝8月20日、9月3・17日、10月1・22日、11月5・17日、12月3・17日（計9回）▼**対象**＝村民どなたでも参加できます▼初心者大歓迎

〔**レクリエーション・ダンス**〕
▼**期日**＝6月26・30日、7月3・14・17日（計5回）▼**対象**＝村民どなたでも参加できます（親子参加大歓迎）

〔**親子水泳（初心者向け）**〕
▼**期日**＝7月22・23・28・30日、8月4日（計5回）▼**対象**＝親子（子どもは小学生以上）

〔**インディアカ**〕
▼**期日**＝11月12・25日、12月10・22日、1月12・28日、2月9・25日、3月4・18日（計10回）
▼**対象**＝村民どなたでも参加できます

〔**スポーツテスト**〕
▼**期日**＝9月12日▼**対象**＝20歳～64歳までの成人

〔**ミニバスケットボール**〕
▼**期日**＝1月9・17・24日、2月11・28日のいずれも午前（計5回）▼**対象**＝小学4～6年生

〔**3on3バスケットボール**〕
▼**期日**＝1月9・17・24日、2月11・28日のいずれも午後（計5回）▼**対象**＝中学生以上

＊時間・内容などについて詳しくは、チラシなどをご覧ください。

〔**問い合わせ**〕　教育委員会生涯学習課社会体育係（山村開発センター内、☎49-2247）

平成10年度村体育協会 各種事業案内

村体育協会では、平成10年度に次の事業を行います。

6月7日＝第8回さわやか高原ロードレース大会（鹿角平周辺）
6月21日＝第53回健康づくり夏季球技大会（青少年広場ほか）
7月19日＝第35回少年少女球技大会（青少年広場）
8月30日＝第9回鮫川村民ゴルフ大会
11月29日＝第9回鮫川村民駅伝競走大会（村内ロード）
1月31日＝第11回鮫川村綱引き競技大会（農業者トレーニングセンター）

くじ普及広報事業の一環で、住民が行うコミュニティー活動の促進を目的としています。〔**問い合わせ**〕企画調整課企画振興係（内線222）

さわやか高原ロードレース大会

〔主催〕鮫川村体育協会
〔日時〕六月七日（日）
〔会場〕鹿角平観光牧場
〔参加資格〕村内外を問わず、健康な方ならどなたでも
〔種目〕**第1部**（男子）＝5km、**第2部**（男子）＝3km、**第3部**（男子二十五歳以上）＝2km、**第4部**（男子小学五、六年）＝2km、**第5部**（男子小学三、四年）＝1・5km、**第6部**（男子小学一、二年）＝1km、**第7部**（女子）＝3km、**第8部**（女子二十五歳以上）＝1・5km、**第9部**（女子小学五、六年）＝2km、**第10部**（女子小学三、四年）＝1・5km、**第11部**（女子小学一、二年）＝1km、**第12部**（親子…就学前の子どもと親、または祖父母、三世代の参加も可）＝1km、**第13部**（夫婦）＝1km
〔申し込み〕五月二十八日までに、山村開発センター内大会事務局（☎49-2247）へ

募集

写真展　さめがわの四季「石像・石碑のある風景」

〔応募資格〕鮫川村民、鮫川村出身者、鮫川村内勤務者
〔作品〕カラープリント四ツ切サイズの一枚写真で、一人三点まで
〔応募締め切り〕十月三十日（金）
九月に応募用紙を配布。
〔応募上の注意〕①鮫川村にある石像や石碑を中心とした風景。ただし、近年建立された記念碑などの石碑は除く。②応募者本人（職業写真家は除く）が撮影したもので未発表の作品。③被写体に人物が入る場合は承諾を得ること。
〔賞〕最優秀賞一点、優秀賞二点、入選数点
〔その他〕作品は、第五十一回村文化祭で展示します。
〔問い合わせ〕企画調整課商工観光係（☎内線221）

史・資料を探る　村史編さん室

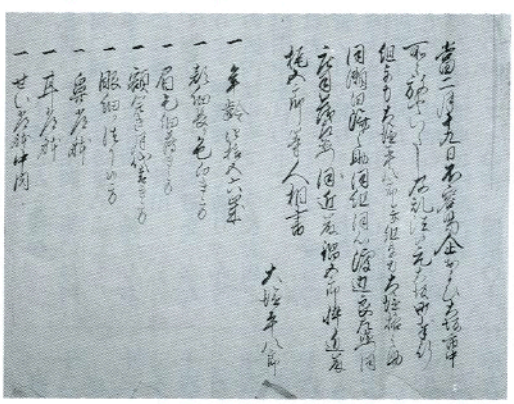
天保八年（一八三七）二月　高坂精一家文書

大塩平八郎人相書

天保七年は、天保四年についでの全国的な大飢饉でした。大塩平八郎は元与力、文武両道にすぐれ、私塾「洗心洞」にて大坂の与力・同心・豪農の子弟などを教導していました。大飢饉の被害は、大坂にも多数の窮民を生じましたが、町奉行などは何ら有効な施策を講ずることができずにいました。大塩は、窮民の救済を上申しましたが聞き入れられませんでした。天保八年、近隣村々へ檄をとばし、二月十九日、門下の与力・同心・豪農とともに挙兵しました。一党は七百人に及び、町に火をかけ豪商を襲って得た金銭を窮民に与えるなどしたものの、鎮圧され、大塩父子は潜伏四十日の後発見され、自刃しました。これが「大塩の乱」でした。

窮民の窮状は都市、農村を問わず極まった様相を深めていましたから、この一揆が導火線となって広まることを恐れ、全国的規模で潜伏者の探索を行いました。私たちの村々へもその申し達が人相書をもってなされたことがこの文書でわかります。当時の支配が末端まであまねく行き渡っていたことにも感じ入るばかりです。

（本文読み下し、平八郎分のみ）



当二月十九日容易ならざる企（くわだて）および大坂市中所々放火いたし乱法（らんぽう）に及び候元大坂町奉行組与力大塩平八郎並びに組与力大塩格之助、同瀬田済之助、同組同心渡辺良左衛門、同庄司茂左衛門、同近藤鍋五郎、悴近藤槿五郎等人相書

一、年齢　四拾五六歳
一、顔　細長く色白き方
一、眉毛　細く薄き方
一、額　開き月代青き方
一、眼　細くつり候方
一、鼻　定躰
一、耳　定躰
一、せい　定躰、中肉
一、弁舌　やわらかにて尖（とが）き方
一、其節の着用　鍬形附軍着用
黒き陣羽織
其余着用分らず

右の趣御料は御代官私領は領主地領より浦方村町は洩らさず様触れ知らすべく候（以下略）

先月号の表題「富田」は「富岡」の誤りにつき訂正いたします。

コミュニティー助成事業＝平成9年度コミュニティー助成事業で、葉貫地内の景観形成のため植栽を行いました。この事業は、全国自治宝





声

―広報直通便―

後世に伝えたい「西山地名数え歌」

大字西山字大平　**関根ミツエ**さん

西山字西野内の関根初男さんの先祖、関根恵重郎先生作の西山区内の地名数え歌は、昔はよく歌われたそうです。このような素晴らしい歌を、ぜひとも後世に伝えたいと思い投書しました。

一つとせい　東のお山に祭り置く、お稲荷神社のご利益で、戸倉に金銭どんと積む

二つとせい　福と聞いたら発地岡、峯には阿夫利の御社、麓に沸く湯はききめよし

三つとせい　見事な花だよ赤柴で、築きしお山は竜神の前には嫁ぎのよい菅田

四つとせい　よく掘り下げたよ坂道を、ななめに廻して通りよく棚橋渡って通りゃんせ

五つとせい　今の区内は中央で、学校お店と立ち並び、水口田中を目の下に

六つとせい　昔はお城のあとそうな、愛宕の山の境内を、菅ノ目で見りゃよい景色

七つとせい　鳴音大きな雷光院、今は御国の神堂で、信心祈祷は大沢よ

八つとせい　山で名高い墓地石、余所内土路部を目の下に、ことに見事な枝垂れ栗

九つとせい　小丸の山とてその昔、関根の十郎住いして、伝わる子孫は大平よ

十つとせい　尊とにぎわう森の山、根渡神社のご利益で、しんしょを追木沼野沢

十一とせい　いつも見晴す社郷、景色見事な高岩で、折戸通うて見やしゃんせ

十二とせい　西野内外祭りおく、青その神のお守りで、生れる子供は皆学者

十三とせい　さても珍らし宝木には、金のなる木はお門先、水のつきせぬ鉢石を

十四とせい　人々信仰あつくして、霊験あらたな妙見の祭りは五月の中の申

十五とせい　牛頭天王の祭りおく、いつも家内はむつましく、少しも小言は岩野草

十六とせい　論なく心が落合で、峯には御嶽大明神、太鼓で宝を呼び寄せる

十七とせい　質とるお金は固いもの、横座で一度で摺合は、陽の出る石見田堂の山

十八とせい　花も紅葉も流れ込む、景色見事な強滝の風もいこうよ屏風石

十九とせい　汲めどもつくせぬ湧く湯つぼ、その名も高き馬生田を辺栗がえして見やしゃんせ

二十とせい　ニコニコ内には福の神、外に鬼越明神の御守護で区内は大繁昌

保健

精神保健講座

〔主催〕　県南保健所

〔対象〕　一般住民（二日間連続受講が可能な人）

〔日時・内容〕　▼六月十一日（木）＝①病気を知る　②精神障害者と家族（ビデオ）　③話し合い▼六月十二日（金）＝①自分を知る　②私達のできること（話し合い）

〔場所〕　県南保健所棚倉支所会議室

〔問い合わせ〕　県南保健所棚倉支所（☎33－2241）

保健推進員が決まりました

村の保健推進員が今年度改選になり、新たに三十人の方々が委嘱されました。

保健推進員は、各地区で健康教室を開催したり、村が行う各種健診の協力など、地域の皆さんの健康づくりのために活動します。

任期は、平成十二年三月三十一日までの二年間です。

保健推進員一覧

地区	氏名	住所(字)
赤坂西野	田子陽子	酒垂
	矢吹みよ	仁田
	高坂マサヱ	上
	佐藤ヨネ子	火打石
	星秀子	蕨平
西山	阿久津春江	折戸
	関根明美	大沢
	我妻須美子	田中
	高木壽美子	婦知女賀
	大竹なみ	菅ノ目
赤坂中野	鈴木利子	馬場
	湯坐きみ子	真坂田
	鈴木静子	道少田
	矢吹美子	官沢
	湯坐文子	新宿
赤坂東野・石井草	蛭田光枝	広畑
	中川西次枝	森ノ前草
	渡邊和子	蕨ノ草
	芳賀和代	戸草
	佐川次江	内ケ竜
富田	松本竹子	二反田
	青戸ケイ子	彦次郎
	添田サチエ	鍬木田
渡瀬	高久はつの	田尻
	小松豊子	大戸中
	國井悦子	中山虫
	國井サダ子	越虫
青生野	笹島カツ子	青生野
	岡部れい子	青生野
	平久江ミネ子	青生野

献血車来村

〔日時〕　五月二十七日（水）午前九時～午後四時三十分

〔場所〕　山村開発センター

〔問い合わせ〕　住民課保健係（☎内線235）

〔あて先〕〒963－8401 鮫川村大字赤坂中野字新宿39－5　鮫川村役場「広報さめがわ」行、FAX49－2651

休日の当番医

	病・医院名	所在地	電話番号
5/17(日)	緑が丘診療所	棚倉町	33-9468
	東舘診療所	矢祭町	46-3165
	石川中央医院	石川町	26-2024
5/24(日)	杉山胃腸科外科皮膚科	棚倉町	33-7551
	金沢医院	矢祭町	46-2312
	大野病院	石川町	26-1181
5/31(日)	和田医院	棚倉町	33-2012
	中島医院	塙町	43-0373
	中島病院	石川町	26-3415
6/7(日)	勝田医院	棚倉町	33-3008
	車田病院	塙町	43-1019
	三瓶胃腸科医院	石川町	26-1234
6/14(日)	大木医院	棚倉町	33-2424
	塙厚生病院	塙町	43-1145
	中島病院	石川町	26-3415
6/21(日)	東白川中央病院	棚倉町	33-3263
	石川医院	塙町	43-0003
	大野病院	石川町	26-1181

ごみ収集日

収集場所	種別	5月	6月
江竜田～中野町～福原～鍬木田～広畑～新宿～道少田～大塩コース	可燃物	7.11.14.18 21.25.28	1.4.8.11.15 18.22.25.29
	不燃物	1.15.29	12.26
さぎり荘～村営住宅赤坂中野団地コース	可燃物	7.11.14.18 21.25.28	1.4.8.11.15 18.22.25.29
	不燃物	13.27	10.24
鮫川分校（不燃物のみ）鮫川中学校コース	可燃物	7.11.14.18 21.25.28	1.4.8.11.15 18.22.25.29
	不燃物	14.28	11.25
関下～越虫～青生野小学校～世々麦～葉貫～蕨ノ草～中沢～関口コース	可燃物	6.13.20.27	3.10.17.24
	不燃物	13.27	10.24
真坂～押目～酒垂～塚本～荻ノ沢～折戸～水口～官沢コース	可燃物	6.13.20.27	3.10.17.24
	不燃物	14.28	11.25
官代～遠ケ竜～大石草～大根屋敷～内ケ竜コース	可燃物	6.13.20.27	3.10.17.24
	不燃物	1.15.29	12.26
石井草～大久保～鬼越～赤柴～沼野沢～岩野草～薄ケ久保コース	可燃物	6.13.20.27	3.10.17.24
	不燃物	22	19

税金

自動車税の納付

自動車税の納税通知書は、五月十一日ごろに送付します。最寄りの金融機関、農協、郵便局で期限までに納めてください。

なお、自動車税の領収証書には継続検査用の納税証明書がついていますので、車検証と一緒に大切に保管し、車検の際に使用してください。

また、身体障害者手帳などを持っている人で、自動車税の減免を申請する場合は、五月二十五日までに手続きを済ませてください。

〔問い合わせ〕 県南地方振興局県税部（☎0248-23-1512）

年金

免除申請はお早めに

国民年金の保険料を納められない場合には、保険料の「免除制度」があります。免除制度には次の二種類があります。

①法定免除…生活保護法による生活扶助や、障害基礎年金を受けている人（届け出が必要）

②申請免除…所得が少ないなどにより、保険料を納めるのが困難な人（申請し承認が必要）

〔免除受付期間〕 五月二十九日（金）まで

〔持参するもの〕 印鑑、保険料納付案内書、在学証明書または学生証の写し（学生のみ）

〔問い合わせ〕 住民課福祉係（☎内線234）

寄付

▼社会福祉事業のために（金員）（敬称略）

青生野・堀川優、中内・中川西一美、後田中・大竹良、二本田・湯坐正、鍛治平・芳賀省悟、虹ケ沢・石井重世

テレビ放映のお知らせ

▼五月三十一日（日）午前十一時～＝福島中央テレビの「こんにちは　ふくしま」の番組の中で、五月七日（木）に行われた、西野緑の少年団の活動「森林観察探鳥会」のようすが紹介されます。

▼五月下旬か六月上旬の日曜日午後七時～（プロ野球中継の都合により放映月日は不確定）＝テレビユー福島（TBS系列）の「さんまのスーパーからくりテレビ」の人気コーナー「ご長寿早押しクイズ」で、鮫川村の元気なお年寄りがクイズに挑戦します。見事優勝に輝くのは、果たして誰でしょう。

宝くじの収益金は、私たちの街の公共事業に役立てられています。
第379回全国自治宝くじ
ドリームジャンボ
1等・前後賞合わせて
1億5,000万円
ドリーム賞 50万円×4,000本
1等6,000万円×120本
前後賞各4,500万円×240本
発売期間 5月19日(火)～6月5日(金)
（発売総額1,200億円・40ユニットの場合）
1等 6,000万円 120本
1等の前後賞 4,500万円 240本
1等の組違い賞 10万円 11,880本
2等 1,000万円 120本
3等 100万円 2,000本
4等 5万円 80,000本
5等 1万円 400,000本
6等 3,000円 4,000,000本
7等 300円 40,000,000本
ドリーム賞 50万円 4,000本
抽せん日:6月16日(火)
ドリームジャンボ宝くじは通信販売でもお求めできます。どうぞご利用下さい。
1枚300円
お問い合わせ先 tel.03-3598-3771
発売 全国都道府県及び12指定都市
宝くじ

「声」、お寄せください＝普段あなたが考えていること、村づくりに関する提案など、皆さんの声をお寄せください。（住所・氏名明記

平成10年5月号 No.533
発行・編集／鮫川村役場総務課

〒963-8401 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39-5
TEL (0247)49-3111 FAX (0247)49-2651

印刷／佐藤印刷所

ふるさとのむかし話 ②

おらが村のあたごさま



むかしむかし、宝木村と戸倉村とは、寄るとさわるといがみ合い、大変に仲が悪かったそうです。その訳は、宝木村の人たちが押野にある神社で、たくさんの参拝人があり、安産と子どもが丈夫に育つ、ご利益の多いあたご様があるのを鼻にかけ、何かにつけ自慢をするのに、戸倉村にはそういう神社がなかったからでした。しかし、信心の厚い戸倉村の人たちは、あたご様の寄り合いがあると、喜んで出かけたそうです。

あるとき、寄り合いがあり、いつものように大勢の人が集まり、宝木村と戸倉村の人たちも大勢集まりました。そこで酒を飲み、最初は楽しく過ごしましたが、だんだんと酒の酔いが回ってくると、いつものように宝木村と戸倉村の人たちがまっぷたつに分かれ、口論になってしまいました。いくら口論をしても決着がつきません。そのうち、誰かが賭けで決着をつけようということになりました。

宝木村の人たちが勝てば、戸倉村の人たちは、金輪際あたご様に足を踏み入れない。そして、戸倉村の人たちが勝てば、宝木村にあるあたご様を戸倉村に持っていき、ひと晩のうちに元のように立てておけば、そこにあたご様をまつっておくという条件が出されました。

そして、宝木村と戸倉村から代表を出して賭けで決着をつけたところ、戸倉村の人たちが勝ちました。しかし、酒に酔っている宝木村の人たちは、「ひと晩でもってげるもんなら持ってってみろ」と、賭けに負けた悔しさに、捨てぜりふを残し、みんなさっさと帰ってしまいました。

喜んだのは戸倉村の人たちです。酒の酔いも手伝い、村中の女、子ども、そして年寄りまで集め、コロにする丸太、牛、そして、牛にひかせるのに使うはよ縄をさっさと準備し、みんなで「ヨーイショ、ヨーイショ」と、力を合わせて運びました。そして、明け方近くに宝木村との境の近くの、戸倉村の水口という部落の高台にかつぎ上げ、ひと晩で元のようにあたご様を立ててしまいました。

次の朝、あたご様がないので、宝木村の人たちがあわてて戸倉村へみんなで駆けつけると、水口の高台にあたご様が「デーン」と立っているのが見えました。宝木村の人たちは、酒の上とはいえ、大変申しわけないことをしてしまったと、みんなであたご様にあやまりました。

それからは、宝木村と戸倉村は、けんかをすることもなくなり、この二つの村は大変仲良くなり、水口にあたご様をまつり、共同で参拝することにしたそうです。そして、二十三日の参拝の日には、みんなこぞってお参りするようになったそうです。

あとがき

今月号では、十一年前の「江竜田の大火」を振り返ってみました。当時高校生だった私は、テレビや写真でしかこの火災を見たことがないので、実際のすさまじさは分かりませんでした。取材をしてみると、地元の方々や消火活動に当たられた方々の苦労は想像以上でした。当時小学生だった芳賀恵さんを取材したとき、恵さんのお母さんが一言。「この世の終わりのようだった…」。（舟木）

今月の表紙



泥んこ大好き。

大字赤坂中野字宿ノ入の矢吹浩美さんの長男・雄太くん（左）と二男・健太くんは、泥んこが大好きです。家族そろっての田植えの日。雄太くんと健太くんも、泥にまみれて田植え（？）を手伝いました。